

# 広島へ行つて思つたこと

竹田あおい

私が広島へ行こうと思つたきかけは、『広島の原爆』という本がきっかけです。この本を読んで、実際に広島へ行つて实物を見たいと思いました。私は、この広島派遣事業で心に残つた2つのことがあります。

一つ目は資料館です。資料館には、写真や被爆者の遺品がありました。写真に写つている人達は、全身にやけどを負い、血だらけの人達ばかりでした。写真の中には、かみの毛がぬけている人の写真もありました。遺品では、丸こげになつた弁当や、服、三輪車がありました。遺品には、自分と同じ位の歳の子の遺品や、自分より小さい子の遺品もありました。私はこれを見て、自分と同じぐらいの子供が、こんなに大勢一しゃんにして、なくなりてしまつたんだと考えると、原爆へのいには被爆者が避難中に見た光景が絵と文章で

表されていました。それは全て、想像のつかないものばかりでした。

二つ目は、式典です。式典では、自分と同じ、小学六年生の作文を聞きました。私はこれを聞いて、このまま平和がつづりてほしいと思いました。そしてもくとうの時間では、と思いました。そしてもう一つの時間では、今の平和なくらしに感謝をしました。そして14年前のことを考えました、きっともうで地ごくのようだ、たと思います。あたりはもうくらで、痛くて苦しかったと思します。私に

はそれ以上想像できませんでした、きっと、私が考えていた世界より、もっとひどいものだつたと思います。

平和の鐘には、国境のない世界地図が書かれていました。この地図には、国境があるから戦争が起きたのだ、ということが表されていました。これらに、鐘をついた人より、鐘の中では、鐘の音を聞いた人の方が小さい音で聞こえることが分かりました。この仕組みは、守るということが表されました。この

鐘には広島の平和への思いがつまっているのだと思いました。この2日間で見たものは、全て、私の想像していたものをはるかに上回るものばかりでした。そして、しょうげき的なものばかりでした。私は、この広島派遣事業で、改めて戦争の事、原爆の事を思い知らされました。二度と戦争が起きないようになりました。多くの人に伝えたいです。今回の経験をより多くの人に伝えたいです。そして、話を聞いた人が、少しでも平和について考えてくれたらいいと思います。